

ニフェジピン錠 10mg 「ツルハラ」  
生物学的同等性に関する資料

鶴原製薬株式会社

## ニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」と標準製剤との血中濃度比較による検討

### 1. 緒言

ニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」と標準製剤との生物学的同等性を検討するため、両製剤投与後の血清中ニフェジピン濃度推移を比較した。

### 2. 実験方法

#### (1) 使用薬剤

ニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」  
標準製剤

#### (2) 対象

家兎 10 羽

#### (3) 投与量

製剤試験により同等と認められた両製剤 4 錠あるいは 4 カプセル (いずれもニフェジピンとして 40mg) を経口投与した。

#### (4) 投与方法

家兎 10 匹を 2 群に分け、1 群にはニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」、他群には標準製剤を空腹時経口投与した。

#### (5) 採血時間

投与前、1 時間、2 時間、4 時間、6 時間、8 時間、10 時間、14 時間

### 3. 結果

血清中ニフェジピン濃度は、投与後 4 時間目に両製剤とも最高血清中濃度に達し、ニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」では平均  $4.09 \mu\text{g/mL}$ 、標準製剤では  $4.29 \mu\text{g/mL}$  検出された。その後減少し、投与後 14 時間目で約 4 分の 1 の濃度になった。

この結果について、くり返しのある 2 元配置で分散分析したところ、投与順序(A 因子)および投与製剤(B 因子)の寄与は小さく問題はなかった。

また、各時間におけるニフェジピンの平均値について有意差検定をした結果、どの時間でも有意差は認められなかった。

以上の実験及び統計学的検討の結果から、ニフェジピン錠 10mg「ツルハラ」および標準製剤は同等の製剤であると認められる。

血清中ニフェジピン濃度

